

群馬パース大学開学記念号

学園だより



学校法人 群馬パース学園

群馬パース大学

■高崎キャンパス
〒370-0044
群馬県高崎市岩押町5-4
TEL 027-310-7766(代)
FAX 027-310-7767

■高山キャンパス
〒377-0702
群馬県吾妻郡高山村中山6859-251
TEL 0279-63-3366(代)
FAX 0279-63-3477



大学教育にかける夢

理事長 樋口 建介

私は、この春

カナダモントリオール市内にあるマギル大学を視察した。マギル大学は、約200年の歴史を持つ総合大学である。日本から約15時間、涼とした空気の流れる街、フランスの匂いのするフランス語圏の街であることを視察して知った。

この場所何でも培い伝統を育んできたのかを感じることで群馬パース大学が目指す方向を見極め

てきた。

大学教育とは何か、臨床家を育てる使命を持って創った大学の意義は何かを改めて確信した。

群馬県北毛地区に看護師を養成

する大学の必要性は、高齢者の看護・介護のための病院・施設を運営してきた私の日々の思いであった。准看護師でさえ雇用し苦慮する現実を日常に抱え高齢者の生活の質を向上させることだけが課題であったとも言える。人が人に向き合う職場では職員の質的向上が、高齢者の生活の質を高める最大の解決方法である。職員の質とは対面する利用者を理解し共感する能力である。

マギル大学に学ぶものは、マギル大学が持つ5つの関連病院との関係であった。大学と臨床の場が一体となった関係を創るために、必要な使命感を相互に持ち合うことは、双方が向上することへの期待感である。期待感は何かといえ、臨床の場での質的向上がもたらす利用者の満足度であると言え

る。

大学の教員は、研究者である前に教育者であれと言うのが、私の持論である。人を育てることの責任、ましてや対人援助の専門家を育てる医療系大学での教育の責任は大きいと痛感している。しかし、これまでの臨床における課題が何であったかと言え、経験に頼る看護・介護、次世代に引き継ぐ共通の基盤づくりが苦手であることであったと考えている。私は利用者の声を臨床に活かす技術や経験、知識、このことに基づく研究成果

が教育に反映されることを群馬パース大学で実践させたい。このために経営者は最大の力を注ぎ、環境整備をしなければならぬ。この成果を創設者が確認できるかどうかは未知である。教育とは時間との戦いであり、伝統とは多くの忍耐と努力と時間が培うものであるとモントリオールで実感した。

群馬パース大学第一回入学式における「理事長祝辞」は、「北京の蝶が舞う」であった。1人の優秀な人間が100歩先行くよりも、100人が1歩ともに歩むことが大きな力を生み出す。しかし現状から1歩先に出ようと気づく者がなければならぬ。先に気づき舞う者が美しければ99人は舞うことの美しさに気づくのである。これは株式市場でニューヨークを震撼させた北京の例を、「気づくことの大切さ」に変えて新入生諸君に話したつもりである。

群馬パース看護短期大学創設より7年、大学となった群馬パース大学にかける「夢」は、果てしなく、入学した130名の一人一人が看護師、保健師、理学療法士としてそれぞれの「夢」を持てるような専門職を目指してほしいと願って止まない。大学が臨床と一体となり、群馬県北毛の地より、世界に「美しく健やかに元気で老いる」専門的な取り組みに一歩ずつ踏み出して行くつもりである。

新人生に贈る言葉

学 長 小 林 功

新人生及び御父兄の皆さん、本学への入学おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。私は学長として、次の三つの言葉を諸君に贈らうと思います。

第一に「諸君は尊い使命を担っている」ということであり、

少子高齢化時代を迎え、医療福祉・保健の現場では、諸君の参加を多に期待している現実があります。諸君は本学の教育課程を終え、国家試験に合格すれば、看護師として、保健師として、また理学療法士として、あるいは大学院進学を目指すこともできる、前途洋々たる青年であります。四年後にその成果が問われるわけですので、頑張ってください。

第二に「命の大切さを知って欲しい」ということでもあります。ここでは群馬パース大学の「P」(Peace)という名前の由来を述べておきましょう。「P」は英語の「ピース(平和)」に相当するポルトガル語です。「P」はパーソン(Person)、英語の「個性」に当ります。「a」はアシステンシア(Assistance)、英語の「アシスタンス」に当ります。「Z」はゼロまたはゼロ(Zero)、英語の「ゼロ」に当ります。この組み合わせ「Paz」は「個性を尊重し、互いに協力し合い、熱心に勉強することであり、本学の教育理

念になつております。

さて、何故ポルトガル語であるかにつき若干触れておきます。戦国時代に、ルイス・アルメイダというポルトガル人の修道士がいました。アルメイダは母国で医学を勉強し、東インド会社を経て、1852年、23歳の時に日本にやってきました。彼はスペインのフランシスコ・ザビエル神父に感化され修道士になりました。そして、クリスチャン大名として有名な九州の大友宗麟の支援を得て、洋式の病院や大学を造り、南蛮医学をわが国に初めて導入したのであります。アルメイダの医療は無料であり、喘息の子供の痰が喉につまっていた時など子供の口に自分の口をつけて痰を吸い取ったと伝えられています。このようなアルメイダの患者に

対する献身的な愛は無残にも中断されてしまいました。時は信長の時代から秀吉の時代になる1586年、仏教やキリスト教に反感を持つ人達の暴動が起こり、アルメイダの病院や大学も火をつけられ燃えてしまつたからであります。やがて長崎の殉教島原の乱平戸の隠れキリシタン等に連動して行きました。私たちはこの事実を時を隔てて継承して行きたいと考え、Pazの名前をつけ、本学の教育理念としたのであります。アルメイダの示した「人の命の大切さを知ること」、

これが諸君へのメッセージです。

第三に「ルーツを大切に」という言葉を贈ります。本学のルーツは樋口建

介理事長が昭和52年、群馬県の北部の武尊山の麓、利根郡川場村に特別養護老人ホーム「川場春光園」を作り、次いで「ほたか病院」を開設したことから始まります。私の恩師七條小次郎先生は群馬大学を停年退官後ほたか病院の名誉院長になりました。また、私の父の生れ故郷が川場村で、終戦直後の一時期に私も川場村の小中学校に通い、ほたか病院の開設時の故永井鶴二村長も、因清現村長も私のクラスメートであります。樋口理事長は数々の労苦にめげず、各地に医療福祉施設を作りました。平成10年、高山村に群馬パース看護短期大学を創設、さらに地域看護学専攻科、平成14年群馬パース学園短期大学と名称変更し理学療法学科を増学科、そして本年4月から群馬パース大学として新たなスタートを切つたわけ

であります。こうして本学の基礎が作られ、21世紀に通用する医療、保健系大学として発展が期待されています。高崎キャンパスと高山キャンパスで培った大学生活の成果を、「心のルーツとして」卒業後は国内外で活躍して欲しいと、教職員一同願つております。輝かしい伝統を作りましょう。諸君の大学生活の出発点に当って、三つの言葉を贈り、有意義な学生生活を送られるよう心から祈つております。

「群馬パース大学」開学にあたって...

保健科学部 学部長 齋藤和子

本学部の教育目標は豊かな人間性を備えた高度な専門技術者の育成です。

保健科学は人々の健康に関する事柄を探究する科学の一分野です。健康に関する事柄としては、なぜ病気になるのか、なぜ怪我をするのか、どうしたら病気が治るのか、どうしたら長生きできるのか、それも元気で長生きするにはどうしたらよいかということがすぐに思い浮かびます。健康の維持・増進、疾病や障害の予防、治療、リハビリテーション、最後の死までが含まれます。これらの課題を科学的に、つまり事実に基づいて、論理的に、体系的に学習し、必要な技術を習得していくのです。

保健科学は人々の健康に関する事柄を探究する科学の一分野です。健康に関する事柄としては、なぜ病気になるのか、なぜ怪我をするのか、どうしたら病気が治るのか、どうしたら長生きできるのか、それも元気で長生きするにはどうしたらよいかということがすぐに思い浮かびます。健康の維持・増進、疾病や障害の予防、治療、リハビリテーション、最後の死までが含まれます。これらの課題を科学的に、つまり事実に基づいて、論理的に、体系的に学習し、必要な技術を習得していくのです。

私たちの仕事は人間を対象としてあります。毎日生活している人々です。学習した知識や技術を十分に活用するには対象となる人々への理解が必要となってきます。このため大学では専門の知識や技術だけでなく、人々の生活、生活を取り巻く環境、文化、歴史などを学びます。これらの学習を通して、ある人はなぜそのように考えるのか、なぜそのように行動するのかを了解し、洞察することができるようになります。そして人々の共感、思いやり、優しさが育つて

いくのです。共感性、理解力、洞察力を深めるには大学での学習に加えて、家族を含めていろいろな人と話をし、交流を持つこと、学内や地域での各種活動への参加、読書などが奨励されます。このようにして普遍的教養と専門的知識・技術を備えた人材を育成していくのです。

卒業後は医療機関、保健・福祉領域、学校、職場、地域社会と多くの進路があります。それぞれが選んだ分野で、十分に活躍してくれ

ることを今から期待しています。四年制の大学として開学されたため、平成17年度から「日本看護系大学協議会」に加入しました。そして5月13日に平成17年度総会があり、新会員校として紹介されました。常設委員会、臨時委員会等の活動報告の後、文部科学省の大学改革推進室長の山崎秀保氏による「大学教育における競争的外部資金について」(資料)大学改革の動向と国公私立を通じた大学教育改革の支援」と題する講演がありました。国公私を問わず、特色ある優れた大学教育への支援という内容で、意を強くして帰ってきました。

皆様の期待と支援に応えるべく、一同励んでいくつもりです。

皆様の期待と支援に

平成16年度 決算報告

(単位:千円)

(単位:千円)

用語説明

- ① 帰属収入
当年度の収入のうち、負債とならず純資産を増加させる収入。
- ② 消費収入
帰属収入から基本金への組入額を控除した後の金額。
- ③ 基本金
建物など、教育活動に必要な資産のうち自己資金にて取得した金額。
- ④ 消費支出
学校法人が消費する用益の対価であり、純資産を減少させる支出。

平成16年度 消費収支計算書	
学生等納付金	559,661
手数料	22,807
寄付金	2,570
補助金	139,384
資産運用収入	6,932
雑収入	2,679
帰属収入合計	734,033
基本金組入額	▲66,472
消費収入 合計(A)	667,561
人件費	331,741
教育研究経費 (うち、減価償却額)	165,576 (81,485)
管理経費 (うち、減価償却額)	79,285 (22,908)
借入金利息	0
消費支出 合計(B)	576,602
当年度繰越消費収入超過額 ※(A)-(B)	90,959
前年度繰越消費収入超過額	4,527
翌年度繰越消費収入超過額	95,486

平成16年度 貸借対照表			
土地	174,675	退職給与引当金	14,533
建物	816,586	長期未払金	4,847
建物付属設備	97,435	固定負債 小計	19,380
構築物	50,815	未払金	34,594
教育研究用機器備品	434,891	前受金	192,675
その他の機器備品	115,898	預り金	2,048
図書	96,565	流動負債 小計	229,317
車両	6,368	負債の部 合計	248,697
有形固定資産計	1,793,233	第1号基本金	2,361,882
電話加入権	459	第4号基本金	36,928
出資金	10	基本金の部 合計	2,398,810
有価証券	40,000		
その他の固定資産計	40,469		
固定資産 小計	1,833,702		
現金預金	892,356		
未収入金	2,096		
前払金	527		
立替金	14,312	翌年度繰越消費収入超過額	95,486
流動資産 小計	909,291	負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部 合計	2,742,993
資産の部 合計	2,742,993		

看護学科三年 唐澤千寿子
当初の大きな目標でした。はじめは驚きの方が大きかったですが、今はその目標を達成できたことを誇りに思っています。



奨励賞

- 【看護学科】
3年 荒牧由布子
3年 浅若 典子
2年 高橋千恵子
2年 内田百合子
- 【理学療法学科】
3年 齋藤 理恵
2年 関 一樹

奨励賞

- 【看護学科】
3年 唐澤千寿子
2年 園部 詩穂
- 【理学療法学科】
3年 川崎 二郎
2年 前田 博之

平成16年度
神 戸 賞 受 賞 者

三年になり実習がはじまり、大変なこともありましたが、充実した毎日を送っています。患者さんをはじめ、たくさんの人と関わりをもちながら、看護の知識や技術を深め、看護師国家試験に合格し、自分の夢に向かって第一歩を踏み出せるよう頑張りたいと思います。

理学療法学科三年 川崎 二郎
昨年引き続き受賞できたことを大変光栄に感じています。二年次は実習や試験など厳しい日程でしたので、時間的制約の多い私には難しいと諦めておりました。現在、臨床実習中で患者様方の治療を行っています。治療の考案、レポート作成など忙しい日々を過ごしておりますが、患者様に接する中でこの職業を選じたことが間違いではなかったことを改めて実感しております。最後に神戸先生に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

理学療法学科二年 前田 博之
三年半の社会人生活を経て、一年前に入学しました。この一年間は、まずは人体について詳しく知りたいという考えを基本に、けじめをしっかりとつけて日々努力してきました。今回の受賞は、そんな私の姿勢を評価して頂いた結果であり、非常に嬉しく思っています。二年生からは一年生の時と同じ考え方で成長できません。理学療法士になるために今の自分が何をすべきかを常に考え、今回の受賞を励みにして日々研鑽を積んでいくつもりです。

賞を励みにして日々研鑽を積んでいくつもりです。

看護学科二年 園部 詩穂
私は、社会人を経験しているなかで、看護師になるという新たな目標を見つけたことができ、この学校に入学しました。当初は、勉強へのプランクが長かったことが、とても不安であり、人の倍は努力が必要だと自覚して、今まで毎日、必死に取り組んできました。そのため、今回、神戸賞をいただけることは、自分自身と自分の目標に対して、改めて自信を持つことができるものとなりました。これを励みに、この先も目標に向かって前進し、無事、達成できるように努力していきます。

努力賞に輝いた学生さんからも、受賞の喜び、先生や友人への感謝、国家試験合格への大きな励みになったという感想が寄せられました。



平成17年度 群馬パース大学入学式 (H17.4.6)



法学部



理学療法学科



祝辞

樋口理事長

森下群馬大学理事



小林学長への
誓いの言葉



地域看護学専攻科

合同交流会 (H17.4.23)

群馬パース大学と群馬パース学園短期大学の学生がスポーツを通して交流を深めるため、初めて開催された。



実行委員長の
小金澤くん

編集後記

本年4月に群馬パース大学が開学し、新1年生130名を迎えました。現在高崎キャンパスで頑張っています。

本号は特集号として教職員紹介の頁を設けました。今後、群馬パース大学にふさわしい紙面づくりに努力したいと考えておりますので、更なる御支援よろしくお願いたします。

皆様からのご意見・ご感想お待ちしております。

〒377-0702
群馬県吾妻郡高山村中山6859-251
TEL 0279-63-3366(代)
FAX 0279-63-3477
URL <http://www.paz.ac.jp/>
E-mail paz@paz.ac.jp

満開のたんぽぽ ~高山キャンパス~



校舎前



食堂から